

令和 6 年度 三木市金物振興審議会議事録

- 1 日時 令和 6 年 1 0 月 7 日（月）午後 2 時から午後 3 時 3 0 分
- 2 場所 三木市役所 5 階大会議室
- 3 会議次第
 - （1） 開会
 - （2） 会長あいさつ
 - （3） 議事
 - （4） 閉会
- 4 会議に付した議事
 - （1） 令和 5 年度主要施策実績について
 - （2） 令和 6 年度主要施策について
 - （3） その他
- 5 議事の概要
 - ・事務局より上記（1）・（2）を説明
 - ・質疑応答、意見交換

（三木市中小企業経営革新設備投資促進事業補助金について）

- A 三木市中小企業経営革新設備投資促進事業補助金について、申請から交付決定まで期間が長いため、使いにくい制度となっている。交付決定までの期間を短縮できないか過去に審議会で議論をしたことがある。申請を随時受け付けるなど方法があると思うが、見解を伺いたい。

事務局 随時申請を受け付けるとなると、その都度審査会を開催する必要があり現実的ではない。ご指摘のとおり申請から交付決定まで期間があるので、少しでもはやく交付決定ができるよう、申請スケジュールを見直したい。

- A 現在、受付の期間が年 1 回と決まっているため、随時受付に変更したり、受付回数を増やすなどしていただきたい。

- B 例えば、春と秋の年 2 回受付期間を設けることはできないか。

事務局 市としては予算をその年度内に執行する必要があるため、秋に受け付ける場合、年度末までに納品が間に合うかどうかを懸念している。

A 少なくとも申請のタイミングは企業側が選択できるようにしてほしい。行政側が選択を狭めるようなことは避けていただけると助かる。

事務局 年2回の申請期間を設定する場合、2回目は予算が既に無くなっている場合も想定される。

A その場合は仕方がない。いずれにせよ融通が利く募集方法をしていただきたい。

事務局 検討する。

A 近年、金物の国内市場は小さくなっており、今後は海外展開に力を入れていく必要がある。海外展開する際は、製品を海外の仕様に合わせる必要がある。そのような海外進出に伴って負担となる設備投資や技術的なコストに対する補助制度があるとありがたい。

事務局 現在の補助制度でカバーできていないところに関しては、新制度の創設や既存制度の拡充等で対応していきたい。

（金物大学について）

B 金物大学について、小売店から継続してほしいという要望はあるのか。

C 最近は少ない。

D 要望はある。去年も金物大学に関する問い合わせがあった。

C 受講された方からは好評だった。

事務局 金物大学については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止して以降、働き方改革等の社会情勢の変化を理由に再開できていない状況である。休日に開催すると参加できないという企業の声も聞いている。来年度の予算の要求する上で、今後の方向性を検討しているところ。

A 昔に比べると参加者が減っているがゼロではない。受け入れ側の負担が大きいため、24 時間お世話をするところは考え直す必要がある。見直すべきは受け入れ態勢であり、プログラムはそのままが良いと思う。再開はしてほしい。

D 問屋は販売店を推薦することができるが、他の問屋の販売店とは交流してはいけない。今までの世話役の方は暗黙の了解で OK だった。販売店同士の交流は問題ないが、問屋と販売店の交流はいけないというルールがある。一緒に見学するだけであれば問題ない。

C 世話役をするなら問屋以外の方ということになる。

E 世話役は連合会がしてはどうか。

A 世話役を一人の方が行ってきたというこれまでの仕組みを見直す必要もあると思う。

事務局 日程について見直す必要はあるか。

E 1 日目の昼に集まって、2 日目の昼に解散で良いと思う。

E 受け入れ側であるメーカーはどういう意見なのか。

事務局 メーカーの声は直接聞いていない。昨年度は金物まつり前日が祝日であったことが中止の理由の 1 つだった。

C 今年中止した理由はなにか。

事務局 世話役の方と相談した中では、参加者が減少していること、3日間参加することがハードルが高いこと、受け入れ側が休日に対応することが困難であること、金物まつりの準備で多忙な中対応ができない等の理由があった。あわせて、受け入れ時期を変更したり、金物だけではなく観光地等も含めて回ってもらうよう変更してはどうかという提案もあった。

A 勝手なことを言って申し訳ないが、工場見学の対応は金曜の昼からというのであれば対応いただけると思う。先ほどの意見は世話役の方が長年対応いただいた中で感じた個人の意見であり、根本的な原因ではないと思う。やはり課題は受け入れ側がどうやってきめ細やかに対応するかというところ。受け入れたはいいが、対応が悪いと思われたら駄目なので。業界としては、今後も実施するほうが良いと思う。

C どうせ三木に来てもらうなら、やはり最後に金物まつりを見てもらったほうが良い。金物まつりの前日が祝日の場合、その年は実施を見送れば良いと思う。やはり問題はアテンドをどうするかというところ。

D 東日本大震災の次の年、確か8人ほどの参加であったと記憶しているが、参加者からは逆に少なくてよかったという意見があった。

E 参加者が多い年の時は、参加者から参加を来年にまわしてほしいというお願いをされたこともある。

C 以前、自社の社員も懇親会等の交流なしで参加させてもらったことがあった。知識を付けるための研修目的として、交流なしの間屋枠を設けても良いと思った。問屋も勉強になる。販売店の参加人数が少ない時は、問屋の枠を増やすなども良い。

E やるべきだと思う。

事務局 毎年すべきか。

A 毎年すべき。

B 体制を整える必要があると思うので、来年はできなくても、
再来年に実施できるよう検討いただきたい。

事務局 体制を作ることができれば、毎年開催することも可能である
と思う。

B 受け入れ側の人選が課題だと思うが、再来年の再開を目指し
てほしい。

E 連合会の事務局にお願いしてみてもどうか。

B 廃止するのではなく、復活の道を作っていただきたい。

事務局 まずは仕組みづくりから検討したい。

（三木金物ニューハードウェア賞について）

C 応募数は年々少なくなっている。良い商品を出しているメー
カーもあるが、もう一度周知徹底してほしい。毎年同じメーカ
ーからしか応募がない。数が少ないと審査する側としても難し
い。応募要件をもっと簡単にしてほしい。提出資料をより簡
単にするなど、エントリーのハードルを下げたほうが良いと思
う。

事務局 実際少なくなっている。募集要項をもう少し簡単にするなど
検討したい。

C 審査員の大学の先生もここ数年は物足りないと感じられてい

と思う。

B 新製品しか対象とならないと勘違いして応募しない事業所が多いと思う。

A 数年前に発売した商品でも応募してよいのか。

事務局 問題ない。

E 既存製品を改良しただけの商品でも応募して大丈夫なのか悩むと思う。

B 卸からもニューハードウェア賞への応募を進めていただきたい。

C 特に審査委員である大学の先生は、ニューハードウェア賞の審査会の当日だけでは、なかなか商品の詳細を理解することが難しい。事前に資料の送付をしてあげたらどうか。

事務局 事前に資料は郵送しているが、資料だけで理解できない製品もあると思われる。

A 商品説明については動画あれば分かりやすい。

C 動画があれば加点対象になるなども良いかもしれない。売れている製品は説明しやすいため、結果的に良い賞が取りやすい傾向にある。客観的に審査いただくという観点からも、応募製品の詳細を事前に説明していただければと思う。

E これだけの予算をいただけていることは非常にありがたいと思う。この補助金を有効活用して、5年後10年後に三木市に税金として還元できるような企業に成長することで恩返ししたいと思っている。このような審議会の機会を設けてもらうことは滅多にないので、今後も引き続き頑張りたい。

F ニューハードウェア賞を受賞してもそれだけでは価値がない。
例えば、受賞製品を実際に使うことができるブースを道の駅に
作るなど工夫する必要があると思う。

(補助金全般について)

E 結局今年は国のものづくり補助金がなかった。三木市は三木
金物に特化して支援いただいているのでありがたい。同じ企業
が補助金を使うのではなく、広く制度を周知して、本当に意味
で支援が必要な企業に活用してもらいたい。

B 設備投資の補助金について、製造業全部には周知できていな
いと思う。たまたま情報を得た業者が活用しているところも多
いと思う。組合に加入していない方は知らないのではないか。

A 例えば簡単な補助金の資料、ダイジェスト版を作成いただく
と良いのでは。日々の仕事に追われている事業者の方にも分か
りやすいチラシが良い。

E 工業組合の永尾局長が作成している瓦版に掲載してもらうの
も良い考えだと思う。

事務局 現在の周知方法としては、広報やホームページくらいである
ため、工業組合の瓦版への掲載は検討する。中小企業サポート
センターもあるのでうまく活用しながら周知を行いたい。

B 例えば最低賃金のチラシには目がいく。そのようなチラシを
作成してほしい。

G 補助金の年間一覧表を作成すべき。クリックすると補助金の
詳細ページに飛ぶなどの工夫が必要。そのサイトを商工会議所
のホームページにリンクさせれば多くの方に見てもらえる。

E ネットも大事だが紙1枚も大事。

B DX 枠もあるので、製造だけでなく卸や商店も周知していくべき。

(その他)

F 新潟のように金物の新しい部分を引き出してくれるコーディネーターがいればありがたい。新潟はコーディネーターで変わったと思う。斜陽産業であるこの業界を盛り上げる方法について考えてほしい。

C 新潟は展示会でのブースの見せ方が上手い。三木は PR が上手くない。三条の新幹線の駅や商工会館のブースはとてもきれいな見せ方をしている。見せ方がとにかくうまい。

A 工場のつくりも見せるように作ってある。三木にはそのような場所がない。

B 三木は一般ユーザーを対象にしていなかったため二の足を踏んでしまうところはあるかもしれない。みんなに見せるような製品でないため、家庭で使用する製品を作っているのであればそのような見せ方もできるかもしれない。